

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

1. 対象（中学校 第3学年）

2. 単元（題材）名「俳句名人の座は誰の手に～言葉選びや表現の仕方にこだわって俳句をつくらう～」  
（全4時間）

3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。
思考力、判断力、表現力等	表現の工夫を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えを分かりやく伝わる文章になるように工夫することができる。
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

4. 本時の目標

お気に入りの俳句を選んだ人同士で付箋を用いてそのよさを交流したり、交流したことをもとに鑑賞文を書いたりすることを通して、作者のものの見方や感じ方・表現の仕方に着目して俳句を読み深めることができる。

5. 授業展開【**本時**・単元（題材）】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

#### 解決したい課題や問い

選んだ俳句にはどんなよさや表現の工夫があるのだろうか。

#### 考えるための材料

- ・作者が見ている情景（五感）、印象的な言葉と表現のすごさ、作者が感動したこと、私が選んだ理由という4観点を示し、俳句の良さを見つける際の手立てとする。
  - ・俳句の情景をイメージすることが難しい生徒にはタブレット端末で画像を調べるよう促すことで、作者が見ている情景や感動を理解しやすいようにする。
- ※同じ俳句を選んだ人同士で小グループを作り、ジャムボードの付箋を用いて意見を交流することで、多くの発想を引き出せるようにする。

#### 想定される活動

※作者が見ている情景（五感）、印象的な言葉と表現のすごさ、作者が感動したこと、私が選んだ理由という4観点のもとに、俳句の良さを見つける。また、同じ俳句を選んだ生徒同士でグループを作り、俳句の良さについて共有し、鑑賞文を書く手立てとする。

**対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）**

**支援および評価**

- 俳句の特徴について確認しよう
  - ・基本的に五・七・五で表現する。・季語や切れ字などがある。
- 選んだ俳句にはどんなよさや表現の工夫があるのだろうか。
  - ・「飛び込みのもう真っ白な泡の中」を選んだ生徒の例

**作者が感じている情景（五感）**

- ・水しぶきが大きく上がっている。
- ・冷たい水の中に入って気持ちがいい。

**印象的な言葉や表現のすごさ**

- ・泡の中という言葉が体言止めで表現されていて印象に残る。
- ・「もう」という言葉から空中にいたことが一瞬だったと分かる。

**作者が感動したこと**

- ・飛び込みという一瞬の動作の美しさに感動している。
- ・「真っ白な」水しぶきの美しさに感動している。

**私が選んだ理由**

- ・飛び込みという言葉が夏の季語であり面白かった。
- ・この句を読んで私も一瞬の動作の美しさを感じるようになった。

友達と交流して作成した鑑賞メモをもとに、選んだ俳句の鑑賞文を書こう。

作者の見た景色だけでなく、冷たい水に飛び込んで気持ちがいいということについても書いてみよう。

切れ字はないけれど、体言止めなどの表現の工夫があったんだな。泡の中という表現がこの句の魅力を引き出していることについて書こう。

飛び込みという一瞬の美しさを十七音にまとめている。私自身もこの句を読んで、一瞬の美しさに着目していきたく感じた。

この句は飛び込みをしたことがない人でも、その様子が鮮明に浮かぶところによさがあります。「泡の中」という体言止めを用いることで、一瞬で空中から水中へと飛び込んだことが印象に残ります。その一瞬の美しさに気づかせてくれる俳句だと感じました。

- ☆作者が見ている情景（五感）、印象的な言葉と表現のすごさ、作者が感動したこと、私が選んだ理由という4観点を示し、俳句の良さを見つける際の手立てとする。
- ☆同じ俳句を選んだ人同士で小グループを作り、付箋を用いて意見を交流することで、多くの発想を引き出せるようにする。
- ★俳句の情景をイメージすることが難しい生徒にはタブレット端末で画像を調べるよう促すことで、作者が見ている情景や感動を理解しやすいよう支援する。

☆教師が別の作品で書いた例を提示し、鑑賞文のイメージをもたせてから取り組む。

★書くことに抵抗のあるAには、グループで作成した鑑賞メモを参考にして、選んだ俳句の魅力について再確認する。

☆内容の加筆や推敲がしやすいよう、鑑賞文はタブレットを用いて書かせる。

**評価【思考・判断・表現】**  
作者のものの見方や感じ方・表現法などを評価し鑑賞することができているか。（鑑賞メモや鑑賞文）

**学習の成果（予想される子供のあらわれ）**

- 鑑賞文を提出し、互いに読み合い、俳句のよさを味わいましょう。
  - ・17音に込められた作者の思いをより理解することができた。
  - ・自分とは違った解釈をしている人がいて参考になった。
- 今日の授業の振り返りをしましょう。
  - ・友達の鑑賞文を読むことで、俳句の魅力がより理解できた。
  - ・次回の俳句作りでは、言葉一つ一つや表現を工夫していきたい。